

中国新聞 SELECT

正月の風物詩として駅伝は定着している。東の箱根駅伝、西はわが広島開催の全国都道府県対抗男子駅伝である。今年も数々のドラマが繰り広げられ、私も含め多くの人に感動を与えた。駅伝の醍醐味は、何といってもチーム一丸となつて、各区间で各ランナーが懸命に走り、一本の襷を次のランナーへつなぐことにある。まさにランナー全員が襷により絆で結ばれてい

想



まつむら まこと
松村 誠

駅伝と襷たすき

るのである。

その駅伝は、わが国で生まれた競技である。最初の駅伝は102年前の1917年に行われた東海道駅伝徒歩競争である。京都を出発し、東京までの23区间、508キロを走つた。また、駅伝の名付け親は、当時の大日本体育協会副会長の武田千代三郎である。駅伝という言葉は日本書紀にも記されている古いもので、朝廷と地方の間の道路に

30里(16キロ)ごとに中継所とされる「駅」を置き、使者が駅に到着し、次の駅まで乗り継ぎの馬を用意するもので、「駅制と伝馬制」または「駅伝貢進」といわれた。まさに駅伝の起源は情報伝達制度である。
では駅伝の襷はというと、律令時代の駅馬・伝馬制度で、使者が駅から駅を移動するのに「駅鈴」という鈴を身分証明として用いていた。駅鈴の代わり

にランナーであることの証明として襷が使われたという説や、飛脚制度の手紙に見立てたという説、東海道五十三次の伝馬制から発想されたという説などがある。ランナーにとつてできるだけ軽く、走る時に邪魔にならず、受け渡しがいしやすく、身に着けて長さが調整できるものとして襷が選ばれたものと思われる。

さて、その駅伝と襷であるが、

私が身を置く医療現場でも全く同じである。それは、駅伝がチーム一体となつて襷をつなぎ、ゴールを目指すのに対し、医療現場でも医師・薬剤師・看護師をはじめ多くの専門職がチーム一体となつて、襷ならぬ患者医療情報をつなぎ、より良い医療を目指している。今後も駅伝を、親近感を持って応援していきたい。

(広島市医師会会長)